

富山県

布施谷の石仏

資料作成：滝本やすし(石川県金沢市)



黒部市嘉例沢の磨崖仏

布施谷(旧西布施村、旧東布施村)

富山県魚津市と黒部市の境を流れる布施川の中流から上流域を布施谷(フセタン)と呼んでいる。布施川の左岸地域が旧西布施村(現魚津市)で、右岸地域が旧東布施村(現黒部市)である。

明治22年の町村制施行により、下新川郡の小川寺村、蛇田村、長引野新村、長引野又新村、布施爪村、黒沢村、大沢村が合併し、西布施村が誕生した。昭和27年の市制施行により1町11村が合併し、魚津市となった。

明治22年の町村制施行により、下新川郡の中陣村、朴谷村、尾山村、阿弥陀堂村、釈迦堂村、内生谷村、笠破村、田糶村、嘉例沢村、池尻村、福平村が合併し、東布施村が誕生した。昭和28年、下新川郡桜井町に編入された。昭和29年の市制施行により2町が合併し、黒部市となった。平成12年に、嘉例沢の全戸が離村した。

民謡の布施谷節、小川寺の獅子舞、中陣のニブ流し、朴谷の獅子舞、尾山の七夕流しなどが有名である。

布施谷の石仏と講

小川寺日尾、小川寺御影、蛇田、内生谷はほぼ全戸が浄土真宗であり、石仏は造立されていない。他の地区には多くの石仏がみられる。

廃村となった嘉例沢には「嘉例沢の石仏」として知られる磨崖仏があり、遠くからも参詣者や見学者が訪れる。

布施谷には11ヶ所の観音堂(小川寺、長引野、布施爪、黒沢、朴谷、尾山、阿弥陀堂、釈迦堂、笠破、田糶、嘉例沢)があり、小川寺の千光寺観音堂と尾山の谷川家観音堂を除く9ヶ所に石造の西国三十三ヶ所観音が納められている。またこのうちの笠破を除く8ヶ所の観音堂内には、石造西国三十三ヶ所観音と同時に作られたと思われる石造文殊菩薩がみられる。以前は毎月観音講が行われていたのだが、現在でも講が行われているのは、小川寺千光寺観音堂、長引野観音堂、尾山谷川家観音堂の3ヶ所のみである。長引野の観音堂には観音講の掛軸が掲げられているが、他の地区では別の場所に保管されている。石造西国三十三ヶ所観音が納められた観音堂は、魚津市釈迦堂の神明社裏の路傍、魚津市東尾崎の高野山真言宗教宝院跡、魚津市天神野新の八幡社前、黒部市新町の路傍、黒部市若栗の曹洞宗白福寺境内などにもみられる。

布施谷には、石造の青面金剛が14体(小川寺2、長引野、布施爪、黒沢、中陣、朴谷、尾山、釈迦堂、田糶村、嘉例沢、池尻2、福平)みられる。布施爪と黒沢の青面金剛は観音堂内に西国三十三ヶ所観音などと共に納められているが、以前は他の地区と同様に独立した庚申堂に納められていたと思われる。庚申講は現在、全ての地区で途絶えてしまっている。小川寺の高野山真言宗心蓮坊の本堂内陣に木造の青面金剛が納められており、使用されなくなった小川寺、長引野、布施爪、尾山、田糶などの庚申講の掛軸が掲げられている。

布施谷では、大師講、太子講、地藏講、二十三夜講、えびす講なども行われていたが、現在これらは全て途絶えてしまっているようだ。また布施谷各所の個人宅に、様々な屋敷神が祀られている。

①魚津市小川寺

千光寺観音堂の隣に白山社(祭神：伊弉諾命、伊弉冊命、菊理姫命)が建てられており、境内に稲荷社(祭神：稲荷大明神)がある。また、天神山頂上に天満宮が建てられている。高野山真言宗心蓮坊および高野山真言宗光学坊の檀家が大半であるが、浄土真宗もみられる。寺院境内以外でも、墓地や路傍などに多くの石仏がみられる。小川寺には、以前は庚申講が数組あったそうである。

日尾集落の外れに神明社(祭神：豊受姫命)が建てられている。日尾は全戸が真宗大谷派で、石仏はほとんど造立されていないが、神明社に五輪塔や板碑などの中世石造物が集められている。御影集落の外れに日吉社(祭神：大山咋神)が建てられている。御影は全戸が浄土真宗本願寺派であり、石仏は造立されていない。別所に粟島社(祭神：少彦名命)が建てられている。

小川山千光寺は、天平18年(746)行基によって開創されたと伝えられる。往時は16坊を有する大寺院であったが、戦火によって心蓮坊と光学坊を除く14坊が焼失した。その後蓮蔵坊が再建されており、現存するのは、観音堂および、心蓮坊、光学坊、蓮蔵坊の3坊である。現在3坊は独立した寺院となっているが、観音堂は3坊が合同で管理している。観音堂には県指定文化財の金銅製千手観音立像が本尊として納められている。心蓮坊は弥勒菩薩、阿弥陀如来、釈迦如来を本尊とし、光学坊と蓮蔵坊は大日如来を本尊としている。布施川の源流に位置する僧ヶ岳の仏平に千光寺奥の院があり、木造の大威徳明王が安置されている。

千光寺観音堂へ登る山門をくぐり抜けると、石段の途中、左右に小堂が建てられている。右の堂は大師堂で、中央に弘法大師、右に不動明王、左に地蔵が納められている。左の堂は庚申堂で、青面金剛が納められている。青面金剛は1面6臂像で、脚下に邪鬼を踏みつけ、2童子、4夜叉、3猿、2鶏を従え、頭上には十字架のようなものが載せられているが、布施谷周辺の青面金剛像によくみられる。

石段を登りきると、観音堂の前に大きな十一面千手観音が建てられており、右手には2棟の小堂が建てられている。右の堂は庚申堂で、青面金剛が納められている。青面金剛は比較的小型の1面6臂像で、脚下に邪鬼を踏みつけ、2童子、2夜叉、3猿を従える。左の堂には、地蔵、観音、弥勒菩薩、虚空蔵菩薩などの石仏が十数体納められている。

観音堂の右手に「ユ・弘法大師一千百回御忌塔」と刻まれた大きな石塔が建てられている。左側面に「昭和十年(1935)／世話人老年會」の銘がある。ユは弘法大師の種子である。

観音堂の裏手に、線刻の六地蔵立像が並べられている。以前は蓮蔵坊裏手の茂みの中に並んでいたのだが、すっきりと整備された現在地へ移された。線刻六地蔵の左手の蓮蔵坊の裏に十数体の地蔵が並んでいるが、そのほとんどは首が落とされている。蓮蔵坊の前には宝篋印塔が建てられている。

光学坊の門前に小堂が建てられており、4体の石仏が納められている。奥の2体は如意輪観音と千手観音で、その手前に弘法大師が、左に胸から上のみの千手観音が納められている。光学坊境内に「ユ・南無大師遍照金剛」と刻まれた角柱型の大きな石塔が建てられている。裏面に「宝暦五天(1755)八月廿八日造立」の銘がある。

心蓮坊の山門の両脇には、仁王ではなく2体の石造地蔵が納められている。その右手に新しく建てられた堂があり、中央に十一面千手観音立像、左右に線刻の六観音立像が3体ずつ納められている。いちばん左の観音は胸から上の部分が欠落しているが、千光寺観音堂の右手前に胸から上のみの線刻観音がみられ、この欠落部分のようである。

心蓮坊の本堂前に大きな宝篋印塔が建てられており、延享5年(1748)の銘がみられる。境内

の右手には「ユ・高祖大師九百二十回忌供養塔」や「南無遍照尊」などの石塔もみられる。

心蓮坊の境内の一角に、灯籠、石仏、石塔などが集められている。左右に灯籠が1対、中央に丸彫りの地蔵半跏像、その左手に小さな石仏が並べられており、地蔵の後ろに2基の石塔が建てられている。右の大きな石塔は「アーク・大聖不動明王／明治十三年(1880)三月建築焉／寛明(花押)」と刻まれており、側面や裏面には世話人などの名前が多数みられる。台石に「釈迦堂新邑講中」と刻まれている。釈迦堂新村は現在の魚津市釈迦堂で、心蓮坊の檀家が多い。また左の石塔は梵字アの下に寛明の道歌が刻まれ、その左に「行者寛明(花押)」と刻まれている。裏面に発起人と5名の世話人の名が、その左に「明治十三年三月建立」と刻まれている。台石にも文字が刻まれているが手前の石仏に隠れており「…創立■釈迦堂新村大…」の部分のみが読み取れる。石仏群の中のいちばん左の座像は剣と宝珠を持っており虚空蔵菩薩のようにみえるが、よく見ると左右にそれぞれ3本の手が出ている。合わせると8臂となることから、弁財天のように思われる。

白山社と心蓮坊との間に、高野山真言宗観阿寺がある。境内には石造七重塔、コンクリート製の小堂、木造の小堂が建てられている。コンクリート製の小堂内には、地蔵、十一面観音、千手観音、子供を抱く地蔵の4体が納められている。子供を抱いている観音は布施谷に数体みられるが、子供を抱いている地蔵はこの1体のみのものである。木造の小堂内には、地蔵3体、如意輪観音、十一面観音、弘法大師が納められている。

千光寺観音堂裏手の河岸段丘の上、長引野のぶどう畑のいちばん奥に、共同墓地がある。墓地内には地蔵や観音など多くの石仏がみられる。墓地西部の少し開けた場所は、もと火葬場があった場所で、13体の石仏が並んでいる。大きな不動明王が1体、大きな地蔵が1体、中くらいの地蔵が6体、小さな観音が5体である。6体の地蔵は六地蔵で、5体の観音は六観音の内の5体である。すぐ右後ろの墓所に並んでいる石仏の左端の如意輪観音が、他の5体からはぐれた1体のものである。

小川寺集落の西の外れから天神野方面へ登る細い山道の登り口の薄暗い林の中に、大小4体の地蔵が並んでいる。以前は木造の堂に納められていたのだが、現在は雨ざらしになっている。夜泣き地蔵と呼ばれ、子供の夜泣きを治してくれるといわれる。

小川寺集落から東山へ抜ける途中のゴルフ場の脇にコンクリート製の小堂が建てられており、大小4体の地蔵が納められている。大きな地蔵の腹部に小さな子供の姿が彫られている。幼くして亡くなった子供を供養する西院河原地蔵(賽の河原地蔵)と呼ばれている。堂内には小石が山のように積み上げられ、子供が使っていた靴などが供えられている。以前はうっそうとした竹林の中だったが、現在は伐採され、すっきりとしている。

天神山は魚津市指定史跡の天神山城跡で、本丸跡(山頂)に天満宮、二の丸跡に光学坊の境外堂である大師堂などが建てられている。山頂へと続く道沿いに新西国三十三ヶ所観音や新四国八十八ヶ所霊場本尊など、200体ほどの石仏が並んでいる。案内図には坂東三十三ヶ所観音も描かれているが、後から置かれた石仏なども多く、はっきりとしない。新四国八十八ヶ所霊場本尊の石仏群の奥に広場があり、善光寺式阿弥陀三尊などの石仏がみられる。善光寺式阿弥陀三尊はわずかに彩色の痕が残っており、正面上部に「善光寺／阿弥陀如来」、左側面に「天神野／新村／大谷派／日蓮宗／同行中／地蔵講／同行中／若連中／世話人／清助」と刻まれている。さらに山頂へ向かう途中に「金毘羅大権現」と刻まれた石塔と雨宝童子立像が並んでいる。雨宝童子の光背部分には「大神宮」と刻まれている。いずれの台石にも文字が刻まれているのだが、磨滅が激しく判読できない。雨宝童子は現在、台石から降ろされている。山頂の天

満宮の御神体であった木造の菅原道真座像は光学坊へ移されており、現在は3体の石像(菅原道真座像、男神座像、薬師如来立像)が納められている。新西国三十三ヶ所観音の近くには「西国／元祖／花山法皇／佛眼上人」、「聖徳太子／六十六大名／寶塔」、「熊野三社大神宮」などの石塔もみられる。

天神山の麓の小川寺と天神野新との境の路傍に、2基の石塔および地蔵や弘法大師など9体の石仏が並んでいる。左の石塔は「ユ・弘法大師一千五十回御遠忌塚／明治十三年(1880)／七月建立之」と刻まれており、左側面に「施主／小川寺村／本井■■右エ門」の銘が入っている。右の石塔は「伊勢神石／天照皇大神宮」と刻まれている。9体の石仏のいちばん左の地蔵立像は合掌しているが、向って右の肩からもう一本の手が出ており、右方を指さしている。その下に「新四国道」と刻まれているので、新四国八十八ヶ所霊場本尊の石仏群への道標を兼ねていたようであるが、現在は全く反対の方を指さしている。

②魚津市蛇田

集落内に加茂社(祭神:別雷神)が建てられており、境内に神明社(祭神:天照皇大神)がある。ほぼ全戸が真宗大谷派であり、石仏は造立されていない。

③魚津市布施爪

長引野へ登る坂の途中に布勢神社(祭神:五十猛命、五十日足彦命)が建てられており、布施川の河畔にあった川原宮(豊受皇大神)が合祀されている。全戸が心蓮坊の檀家である。各家の墓所などにも、地蔵や観音などの石仏がみられる。

布勢神社の参道脇に観音堂が建てられており、石造の西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、地蔵菩薩2体、青面金剛、不明仏と木造仏数体が納められている。ほとんどの石仏が彩色されている。文殊菩薩は西国三十三ヶ所観音よりも少し大きい、石材や手法が同じであることから、西国三十三ヶ所観音と同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。観音講に用いられていた掛軸(壹國三十三所本尊、百観音、地蔵、弘法大師修行像)と数珠繰りに用いられた大数珠などは現在、地区のコミュニティーセンターに保管されている。青面金剛は1面4臂像で、脚下に2邪鬼を踏みつけ、2童子、4夜叉、3猿、1鶏を従える。頭上には十字架のようなものが載せられている。右側面に「干時文政四辛巳天(1821)」、左側面に「庚申講中」の銘が刻まれている。庚申講は2組あったそうである。庚申講で用いられていた掛軸が心蓮坊の本堂内陣に保管されているが、どちらの講で使用されていたものかは不明である。

布勢神社近くの坂道の路傍に、2基の石塔が並んでいる。向って左の自然石の石塔は「ユ・高祖大師千回御忌供養塔／文政十一子年(1828)／三月■■十三日」と刻まれているが、右の角柱型の石塔は磨滅が激しく「……経四國西國……」の文字が僅かに読み取れるのみである。

長引野との境界近くの路傍に大きな顕彰碑が建てられており、その両脇に石造の千手観音立像と虚空蔵菩薩座像が置かれている。虚空蔵菩薩は一般的にみられる剣と宝珠を持つ姿ではなく、来迎阿弥陀に伴う二十五菩薩の中にみられる鼓を打つ姿である。

④魚津市長引野

上長引野に神明社(祭神:天照皇大神)が建てられており、白山社(祭神:菊理姫命)が合祀されている。心蓮坊および光学坊の檀家で過半数を占めるが、真宗大谷派も多い。路傍にも六地蔵や観音など多くの石仏がみられる。

長引野の尼寺跡に観音堂が建てられており、石造の西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、弘法大師が納められている。中央に弘法大師が、その背後に文殊菩薩が置かれている。弘法大師以外は美しく彩色されている。文殊菩薩は西国三十三ヶ所観音よりも少し大きい。石材や手法が同じであることから、西国三十三ヶ所観音と同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。現在でも観音講が続けられており、堂内には講に用いられる掛軸(十三仏、地蔵、弘法大師修行像)が掲げられている。また西国三十三ヶ所観音の左手前に、袈裟が掛けられた丸彫りの小さな石像が1体置かれている。弘法大師の座像で、以前は1ヶ月ごとに順番に各家にあずけられお参りされていた。観音堂の裏手には「納経塚／四國西國坂東秩父新四國壹國各霊場／昭和十六年(1941)八月／布施野いと建之」と刻まれた石柱が建てられている。

神明宮の境内に小堂が建てられており、石造の青面金剛が納められている。一般的にみられる1面6臂像であるが、持物の剣は鉄製である。庚申講は3組あったそうである。庚申講で用いられていた掛軸が心蓮坊の本堂内陣に保管されているが、どの組で使用されていたものかは不明である。

⑤魚津市黒沢

集落内に日吉社(祭神：大山咋神)が、集落の外れに稲荷社(祭神：稲倉魂命)が建てられている。ほとんどが真宗大谷派だが、心蓮坊の檀家が1戸ある。観音堂および共同墓地に石仏がみられる。

路傍に観音堂が建てられており、石造の西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、青面金剛が納められている。青面金剛にはわずかに彩色の痕がみられるが、他の石仏は彩色されていない。文殊菩薩は西国三十三ヶ所観音とほぼ同寸であり、石材や手法が同じであることから、西国三十三ヶ所観音と同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。

共同墓地に多くの石仏や石塔がみられる。右端に建てられている自然石の石塔は「ユ・弘法大師一千回御忌供養塔／黒沢村／同■中」と刻まれている。以前は心蓮坊の檀家が何軒もあったことがうかがえる。線刻五輪塔や、側面に梵字光明真言が刻まれた薄肉彫りの地蔵などが珍しい。

⑥魚津市大沢

集落の外れに白山社(祭神：菊理姫命)が建てられており、近くに水神社(祭神：罔象女命)がある。全戸が真宗大谷派であり、墓地や路傍などに石仏は造立されていない。

白山社の近くに罔象女命を祭神とする水神社の小祠が建てられており、御神体として丸彫りの女神石像が祀られている。

⑦黒部市中陣

集落の外れに八幡社(祭神：誉田別命)と東照宮(祭神：東照大神)が建てられている。布施川からの取水口の脇にあった川原宮は、東照宮境内へ移されている。宗派の構成は不明である。共同墓地には石仏はみられない。

集落内の路傍に庚申堂が建てられており、1面6臂の青面金剛像が納められている。脚下に邪鬼を踏みつけ、2童子、2夜叉、1猿、1鶏を従えている。

集落外れの路傍に、千手観音立像が浮彫りされた笠付角柱型の石塔が建てられている。像の上に、日月輪が彫られている。右側面に「南無大悲観世音／文政十一年(1828)／九月吉日」と

刻まれている。左側面にも文字が刻まれているが、判読困難である。

山田との境界近くの路傍に、2基の題目塔が並んで建てられている。右の題目塔は題目講によって建てられたものと考えられ、中陣には日蓮宗系の人達もいたのであろう。

⑧黒部市朴谷

集落外れに神明社(祭神：天照皇大神、豊受姫大神)と天満宮(祭神：菅原大神)が建てられている。ほとんどが心蓮坊の檀家である。

路傍に観音堂が建てられており、西国三十三ヶ所観音をはじめとする石仏三十九体と木造仏六体が納められている。彩色されている石仏は、西国三十三ヶ所観音、十一面千手観音、文殊菩薩の三十五体である。十一面千手観音と文殊菩薩は西国三十三ヶ所観音よりも大きい。石材や手法が同じであることから、西国三十三ヶ所観音と同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。

路傍に庚申堂が建てられており、1面6臂の青面金剛像が納められている。脚下に邪鬼を踏みつけ、2童子、4夜叉、3猿、2鶏を従えている。頭上には十字架のようなものが載せられている。

庚申堂の左には、聖観音立像および「■・弘法大師一千回御忌供養塔／……／官者中」と刻まれた石塔が建てられている。

路傍の少し奥に入った所に「ウーン・大聖不動明王」と刻まれた大きな石塔が建てられている。左右に「明治十四(1881)年四月立焉／寛明行者(花押)」、台石に「世話人／朴谷邑講中清五郎」の銘が刻まれている。

⑨黒部市尾山

集落の外れに熊野社(祭神：伊弉册尊)が建てられている。ほとんどが心蓮坊の檀家である。集落内に題目が刻まれた新しい墓標がみられるので、日蓮宗系の家もあるようだ。

谷川家に庚申堂が建てられており、昭和元年(1926)に作られた1面6臂の青面金剛像が納められている。脚下に邪鬼を踏みつけ、2童子、4夜叉、3猿、2鶏を従えている。平成20年に訪問した時には庚申講が続けられていたが、その後すぐに途絶えてしまった。その当時用いられていた掛軸は平成2年に新調されたもので、もとの古い掛軸は心蓮坊の本堂内陣に保管されている。

谷川家には観音堂も建てられており、木造の弘法大師と四国八十八ヶ所本尊の木造仏が納められている。この堂内には、石造の観音や弘法大師などもみられる。現在でも観音講が続けられている。

集落内の路傍に新しい石造の小堂が建てられており、十一面千手観音座像が納められている。谷川家の墓所にも、観音や地藏などの石仏がみられる。

⑩黒部市阿弥陀堂

集落の外れに日吉社(祭神：大山咋神)が建てられている。心蓮坊の檀家が多いようであるが、詳細を確認していない。

路傍に観音堂が建てられており、石造の西国三十三ヶ所観音、阿弥陀如来、文殊菩薩が納められている。阿弥陀如来は他の34体よりも大きい。石材や手法が同じであることから、これら35体の石仏は同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。阿

弥陀如来以外の石仏は、美しく彩色されている。奥壁上部に「念彼観音力」と書かれた額が掲げられている。また左の壁には「南無大師遍照金剛」と書かれた掛軸が掛けられている。

阿弥陀堂では昭和20年代まで庚申講が行われていたそうであるが、青面金剛などの庚申塔は地区内には確認できない。

集落の外れの農地の一角にコンクリート製の小堂が建てられており、1基の石塔が納められている。磨滅が激しくはっきりとしないが、五輪塔が陽刻された板碑のようである。

中田家の墓所に、観音や地蔵の石仏が数体みられる。

⑪黒部市釈迦堂

集落の外れに白山社(祭神：菊理姫命)が建てられている。全戸が心蓮坊の檀家である。

公民館の裏に観音堂が建てられており、木造仏2体(釈迦と弘法大師)と西国三十三ヶ所観音などの石仏38体が納められている。西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、大きな聖観音の35体は、石材や手法が同じであることから、同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。近年まで、毎月観音講が行われていた。

観音堂の入り口の左右に、10体の石仏が置かれている。9体は地蔵と観音であるが、1体は弥勒菩薩である。観音堂の右手前に、石仏や石塔が並べられている。中央の大きな石塔は「ユ・弘法大師一千回御忌供養塔／…………／官者中」と刻まれている。

路傍の小堂内に、子供を抱く観音と、1面6臂の青面金剛が納められている。庚申講は昭和後半まで行われていたそうである。

⑫黒部市内生谷

集落の外れに白山社(祭神：菊理姫命)、稻荷社(祭神：稻倉魂命)、水神社(祭神：罔象女命)が建てられている。ほぼ全戸が浄土真宗であり、石仏は造立されていない。

⑬黒部市笠破

集落内に白山社(祭神：菊理姫命)が建てられており、少彦名社(祭神：少彦名命)を合祀している。集落の外れに神明社(祭神：天照皇大神)が建てられている。平成5年に、布施川からの取水口の脇に布施川水天宮(祭神：天之御中主神、安徳天皇、建礼門院二位尼)が建てられた。真宗大谷派が過半数であるが、他は高野山真言宗(心蓮坊の檀家)である。

白山社の隣に観音堂が建てられており、西国三十三ヶ所観音などの石仏が納められている。これらの石仏は赤い色の石で作られているが、嘉例沢で採取される石だそうである。観音群の中央に厨子があり本尊と言われているが、施錠されており地区の人達も拝見したことがないそうである。観音講は、高野山真言宗の人達で行われていた。観音堂の前には五輪塔の残欠などもみられる。

集落内の路傍に「西國納経墳」と刻まれた石塔が建てられており、2名の戒名が刻まれている。

集落の外れに、五輪塔や石仏が並んでいる。地元の人達はこの場所を五輪石(ゴリンセキ)と呼んでいる。右端の石仏は普賢菩薩のようである。

笠破では昭和後半まで庚申講が行われていたそうであるが、青面金剛などの庚申塔は地区内には確認できない。

⑭黒部市田靱

集落内に白山社(祭神：菊理姫命、伊弉諾尊、伊弉冊尊)が建てられている。ほとんどが心蓮坊の檀家である。

白山社の左手に観音堂が建てられている。中央の厨子に木造の弘法大師座像が納められ、その周りには石造の西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、普賢菩薩、不動明王が置かれている。これら三十六体の石仏はいずれも彩色されており、石材や手法が同じであることから同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。堂内には、寛明行者の自画像が描かれた掛軸が掲げられている。像の上に「ア・ウーン」、下には「講中／寛明(印)」と書かれている。二十三夜講に用いられたものである。

白山社入り口の右手に小堂が建てられており、丸彫りの弘法大師座像が納められている。そのすぐ左には角型の石塔が建てられており、勢至菩薩座像が浮彫りされている。二十三夜講で建てられたサンニャ様である。

集落中ほどの路傍に庚申堂が建てられており、1面6臂の青面金剛像が納められている。脚下に邪鬼を踏みつけ、2童子、4夜叉、3猿を従えているが、鶏は彫られていない。頭上には十字架のようなものが載せられている。堂内には如意輪観音と丸彫りの弘法大師座像も納められている。庚申講は3組あったそうである。しかし地区内には、他に庚申塔らしきものは確認できない。庚申講で用いられていた掛軸が心蓮坊の本堂内陣に保管されているが、最後まで行われていた組のものであろう。

庚申堂の北の路傍に小堂が建てられており、不動明王座像が納められている。水神様と言われている。

集落北端の路傍に、地蔵立像と1基の石塔が並んでいる。石塔の文字は判読困難であるが「南無遍照金剛一千回御忌供養塔」と刻まれているようである。

集落の北の外れに共同墓地があり、観音や地蔵などの石仏がみられる。子供を抱いている観音は布施谷に数体みられるが、乳房を出しているのはこの1体のみである。

小学校の跡地に、観音や地蔵の石仏が40体ほど並べられている。

⑮黒部市嘉例沢

嘉例沢は、魚津市東城から登り、黒部市宇奈月町下立へと下りる古道の途中に位置する。平成12年に全戸が離村し、廃村となった。集落内に白山社(祭神：菊理姫命、天照皇大神)、集落の外れに金比羅社(祭神：金比羅大権現)が残されている。曹洞宗が多く、真言宗、浄土真宗も混在していた。

昭和の中頃まで、集落内に千手庵という曹洞宗寺院があった。その場所には現在も古い観音堂の建物が残されている。平成17年に100メートル余り離れた現在地に石造の観音堂が建てられ、旧観音堂に納められていた仏像が移された。市指定文化財の木造十一面千手観音立像と石造の西国三十三ヶ所観音、善光寺式阿弥陀三尊、釈迦如来、文殊菩薩、不動明王である。釈迦如来を除く35体の石仏は美しく彩色されており、石材や手法が同じであることから同時あるいはほぼ同時期に同じ石工によって作られたものと思われる。善光寺式阿弥陀三尊と文殊菩薩は、西国三十三ヶ所観音よりも大きい。旧観音堂内には、観音講や庚申講に用いられた掛軸などが多数残されている。十三仏の掛軸が2幅残されているが、いずれも釈迦如来を中心に描かれたもので、嘉例沢は曹洞宗が中心であったことがうかがえる。

平成18年に、新観音堂のそばに庚申堂が建て直された。庚申塔は台石に載せられた唐破風

付角柱型で、1面6臂の青面金剛が彫られ、脚下に2邪鬼を踏みつけ、2童子、4夜叉を従え、台石に2猿、2鶏が彫られている。黒部市宇奈月町下立の曹洞宗全龍寺境内の庚申塔と酷似しており、嘉例沢が布施谷の他の地区とは文化圏が異なることがうかがえる。旧観音堂内に庚申講の掛軸が2幅残されているので、庚申講は2組あったのではないかと思われる。

集落の外れには「嘉例沢の石仏」として知られる磨崖仏がみられる。露出した凝灰岩に、5体の仏像が陽刻されている。向って左から、地藏立像3体、観音立像1体、如来形座像が1体である。地藏3体の周りには覆い堂の痕跡がみられる。地藏3体は室町時代に彫られたと考えられており、観音と如来の2体は江戸時代に彫られたものである。観音の光背に「明和二年(1765)三三回忌為菩提」、如来の脇に「■明禅尼菩提」の銘が報告されている。昭和40年に県の史跡に指定されている。昭和32年に覆い堂が建てられ、平成4年に改修されている。

集落の南端と北端に地藏が置かれているが、これらはサイノカミとして建てられたものだろうである。

⑩黒部市池尻

集落内に白山社(祭神：菊理姫命)が建てられている。上中尾に天満宮(祭神：菅原大神)が建てられている。集落内の路傍に水天宮が建てられている。真宗大谷派と高野山真言宗(心蓮坊の檀家)が混在している。太子講は東布施の大工や左官たちが集まって行われていた。

バス停横に、小堂が2棟建てられている。右の堂には如意輪観音が納められている。左の堂は庚申堂で、2体の石像が納められている。右の石像は1面6臂の青面金剛であるが、この地域としては小型で童子や夜叉などは彫られていない。庚申講は高野山真言宗の人達で行われていた。左の石像は3面6臂であるが、青面金剛と考えられ、黒部市石田の路傍にも同じ石仏がみられる。

庚申堂の左に建てられている石塔は「ユ・弘法大師一千御忌供養塔／池尻邑／官者中」と刻まれている。

⑪黒部市福平

集落内に白山社(祭神：菊理姫命)と富士社(祭神：木花咲耶姫命)が建てられている。ほとんどが真宗大谷派であるが、高野山真言宗(心蓮坊の檀家)が数戸ある。

集落の入り口与茂谷川に架かる福平橋の手前にコンクリート製の小堂が建てられており、丸彫りの弘法大師座像が納められている。

集落中ほどの路傍に、「ユ・南無遍照金剛一千回御忌供養塔／弘化五申年(1848)／二月廿八日」と刻まれた石塔、1面6臂の青面金剛、不動明王座像がみられる。

集落南の路傍に不動明王、集落東外れの路傍に地藏がみられる。



小川寺日尾神明社の中世石造物群



小川寺千光寺観音堂石段右の石仏



千光寺観音堂石段左の庚申堂
青面金剛



千光寺観音堂と十一面千手観音



千光寺観音堂右手
「ユ・弘法大師一千百回御忌塔」



千光寺観音堂裏の線刻六地藏



小川寺光学坊門前の弘法大師



光学坊境内の「ユ・南無大師遍照金剛」



小川寺心蓮坊山門右の十一面千手観音と線刻六観音



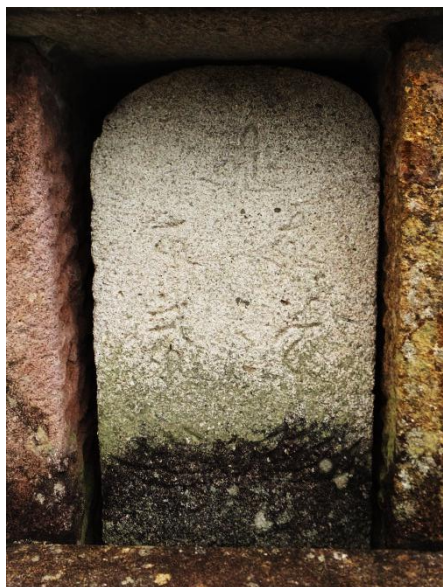
心蓮坊境内の宝篋印塔



心蓮坊境内の石仏と石塔



小川寺共同墓地の石仏



小川寺共同墓地の大威徳明王種子碑



小川寺集落外れの西院河原地蔵(賽の河原地蔵)



小川寺集落外れの夜泣き地蔵



天神山の善光寺式阿弥陀三尊



天神山の雨宝童子



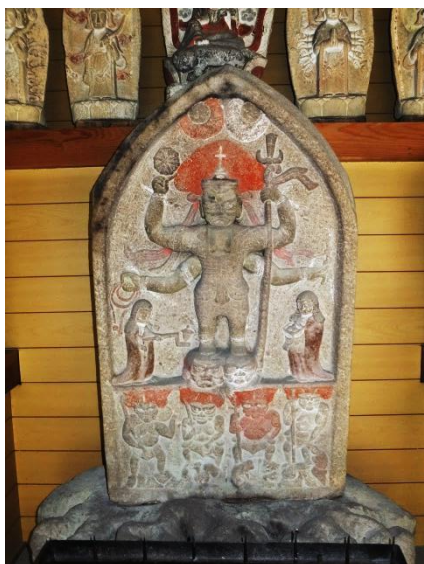
天神山麓の「伊勢神石／天照皇大神宮」



天神山麓の道標地藏



布施爪観音堂の石仏



布施爪観音堂の青面金剛



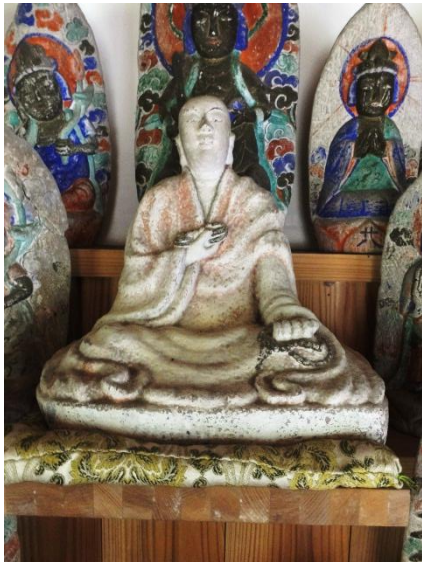
布施爪観音堂の文殊菩薩



布施爪路傍の虚空蔵菩薩



長引野観音堂の石仏



長引野観音堂の弘法大師



長引野観音堂の弘法大師



黒沢共同墓地の石塔



黒沢観音堂の石仏



大沢水神社の罔象女命



中陣路傍の千手観音



朴谷庚申堂の青面金剛



朴谷路傍の「ウーン・大聖不動明王」



朴谷観音堂の石仏



尾山谷川家庚申堂の青面金剛



尾山谷川家観音堂の木造弘法大師と四国八十八ヶ所霊場本尊



阿弥陀堂観音堂の石仏



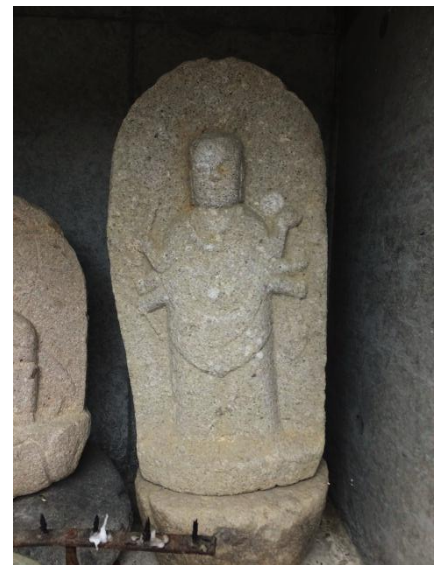
釈迦堂観音堂の木造弘法大師と石仏



釈迦堂観音堂の文殊菩薩



釈迦堂路傍の子供を抱く観音



釈迦堂路傍の青面金剛



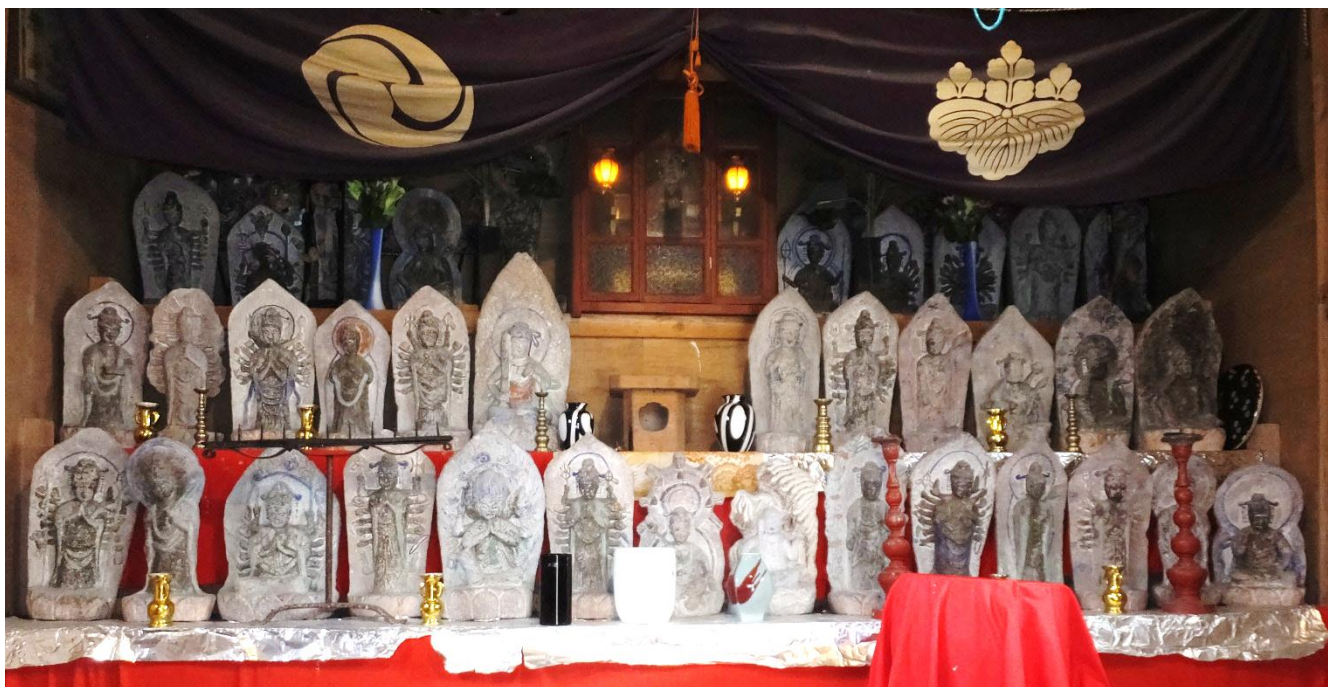
笠破観音堂の石仏



笠破路傍の「西國納経墳」



笠破路傍の五輪塔と石仏



田朶観音堂の石仏



田朶観音堂の文殊菩薩



田朶観音堂の不動明王



田朶観音堂の二十三夜講掛軸



田朶路傍のサンニャ様(勢至菩薩)



田朶路傍の弘法大師



田朶庚申堂の青面金剛



嘉例沢観音堂の木造十一面千手観音と石仏



嘉例沢観音堂の善光寺式阿弥陀三尊



嘉例沢の磨崖仏



嘉例沢庚申堂の青面金剛



嘉例沢集落南端のサイノカミ地蔵



嘉例沢集落北端のサイノカミ地蔵



池尻路傍
「ユ・弘法大師一千御忌供養塔」



池尻庚申堂の青面金剛



池尻庚申堂の3面6臂青面金剛



福平集落入り口の弘法大師



福平路傍の青面金剛



福平路傍の不動明王

参考資料

木造仏・絵像



僧ヶ岳の木造大威徳明王
僧ヶ岳仏平にある千光寺奥の院の本尊。冬季は麓に降ろされている。法要時に開扉される。



小川寺の木造青面金剛
心蓮坊本堂に納められている1面4臂像。2童子を従えている。



尾山の青面金剛絵像
尾山庚申講の掛軸。平成2年に新調されたもの。もとの古い掛軸は、心蓮坊本堂に掲げられている。

布施谷周辺の観音堂



魚津市釈迦堂観音堂の石仏

心蓮坊の檀家が多い地区。神明社裏手に観音堂が建てられており、石造の西国三十三ヶ所観音、文殊菩薩、如意輪観音、不動明王2体、弘法大師2体が納められている。堂内に、十三仏、弘法大師四国八十八ヶ所霊場本尊、弘法大師修行像2幅の掛軸が掲げられている。



魚津市天神野新観音堂の石仏

八幡社参道に観音堂が建てられており、石造の西国三十三ヶ所観音と文殊菩薩が納められている。



魚津市東尾崎教宝院観音堂の石仏

高野山真言宗教宝院は廃寺となり、本堂内の木造仏は光学坊へ移された。境内には観音堂が残されており、石造の西国三十三ヶ所観音と文殊菩薩などが納められている。中央の厨子内は、木造の如意輪観音。



黒部市新町(旧石田新)観音堂の石仏

浄土宗の多い地区。現在は黒部市石田の浄土宗西往寺によって管理されている。